

お正月二話

お念仏の救い 真宗講座開催



本年1月26日、赤羽別院において、赤羽地域教化センターが主催する真宗講座が開かれた。本講座は教化センター1発足後から、お聖教をテーマとして開催されており、これまで池田勇諦氏より「報恩講和讃」について全六回、古田和弘氏より「正信偈」について全九回、

廣瀬惺氏より「御文」について全五回にわたって講義していただいた。
本年はあらたに「お念仏の救い」敷異抄に学ぶというテーマのもと、高山教区不遠寺住職の四衛亮氏をお招きし、「敷異抄」についての講義をしていただくこととなった。
第一回目の講座にあたって、はじめに四衛氏は「敷異抄」というお聖教について、親鸞聖人の教を直に聞いて語り合った方々が、次の世代の人々のために、教を確かめていく大事な視点を伝えておきたいところから生まれた書物であると、「敷異抄」が書かれた背景についてお話をされた。また、教えをどうしても自分



の都合や考えで聞いてしまいがちな部分の常であるが、間違っていたら断罪することではない、どう間違ったのかを確認し教えをいただき直し、異なっていたことを軟かながら真実に帰していかないと意味で「敷異抄」が残されたのだと、このお聖教の意義についてお話をされた。
▼法話要旨は一面に掲載

修正会

赤羽別院では、今年度も年越しに合わせて初鐘と修正会がお勧めされました。修正会とは、毎年正月に厳修される法要です。「あけましておめでとうございませう」と年頭の挨拶を交わす中で、何をめでたいこととされているのか、わたしたちにとって何が本当に大切なことであるかを改めて考えたいとお勧めです。

初鐘

穏やかな平成最後の年越し夜を迎え、別院へ初詣に訪れた人々が鐘楼に上がり、それぞれの思いをもって撞木を揺らし、境内に鐘の音を厳かに響かせ新年の幕開けを祝った。
お御堂の中では、御本尊に手を合わせた参詣者の方々が甘酒をいただいたながら談笑し、冷たくなった体を暖めておられた。
毎朝鐘の音が聞こえてくるといふ、別院近隣にお住まいの方は「年越しには欠



揃って鐘つき

法義相続・別院護持 双全講を厳修

本年1月15日、赤羽別院にて双全講が動きました。双全講は、南無阿彌陀仏の教えを、私自身がいただき、後の世を生きる人々にも大切にしたいという事と、そのための場である赤羽別院を護っていききたいという二つの願いをもっている法要で、双全講という名前も赤羽別院独自のものなのです。
法話は、第12組玉照寺の小栗眞次氏です。小栗氏は「仏説阿彌陀經」には、浄土の十万億の仏を敬いながらその世界を超えて、必ず浄土へ還って食事(教え)をいただくとお説かれています。私たちも、お盆や正月になると交通渋滞しても帰省して親族家族で集



読経中

基本にかえる 声明作法研鑽会

赤羽別院では毎月28日午後7時より別院広間において、別院別院が中心となり、声明研鑽会が開催されています。今回研鑽会に参加をし、改めて読むという事が難しく、いかにか基本が出来ていないかを考えさせられました。
参加者全員であいつつした後は、4月11日の報徳会に向けて全員で「阿彌陀經」の「如陀」を全力での発声。普段から声を出していない私は直ぐに喉がガラガラに腫れてしまいい、以降のお稽古はガラガラ声のままのお稽古となりました。
「如陀」の次には「正信偈」草四句目を基本に添う形でのお稽古をしました。日常読んでいる我流の「正信偈」とは全く異なり、終了後は大きく息が出てしまうほど疲れが感じました。
声明には声明作法と言われ

民俗行事から問われる 伝道研習会開催

去る1月21日、竹橋太氏(本山本願寺出仕)を講師にお招きし、赤羽別院において岡崎教区伝道研習会が開催され、主に住職・僧侶が参加した。
「真宗の仏事」民俗行事から問われること」というテーマのもと、講義、座談、質疑応答と4時間にわたって内容の濃い研習会がこなされた。
竹橋氏は「民俗行事から問われるのは、結局私の信心です。私がどれだけ信心をいただいているか。それをよることではないか。そういうことを他の人も求めているに違いないと思えるかどうか。感じられるかどうか」と基本的見解を示された。
その中で民俗行事、ペットの葬儀や魚の供養を求められた時にどう思えていくかは「やり方はいろいろでもよい。皆さん(住職)に任せられている。供養については「供養をやることへの負目のようなもの」に我々は深く降りていかな



竹橋太氏

ひと・ほとけ・いのち 赤羽ブロッコ坊守学習会

別院裏手に春の花が咲き始めた、2月18日、赤羽ブロッコ坊守学習会が開催された。インフルエンザの猛威の心配される中、40名ほどの坊守さん(学長)のお話を、「ひと・ほとけ・いのち」と題して聴かせていただいた。
田代氏は、仏教の教えによって生死の苦しみを超えていく研究(ビハラ)を重ねておられる。治療方法のない難病患者や、余命宣告された方々の死への不安を救うのは、仏教しかないと言われた。
命は自分のモノではなく、長く生きることが必ずしも救いではない。むしろ、いつ死んでも不思議ではないとした私に、今ここに生きていて、その事をそのままに受けとめ「これでよかった」と気付くことができ、私の価値観が変わる



田代俊孝氏

二ヶ組で実施 帰敬式法座始まる

第10組

聖人のご生涯に学ぶ

第10組では昨年末から本山指定の「帰敬式法座」という連続講座をスタートした。今までの法座は一方的にお話を聞く一時的な学びだったが、今回の帰敬式法座は「帰敬式(おかみそり)を受け、真宗門徒として、法名を名づける生活をはじめた」ということを目標とし、実りのある学びを目指している。その場づくりのため、ご門徒さんを含めた実行委員会を組織し、検討を重ねて開催に至った。

「親鸞聖人のご生涯に学ぶ」というテーマで、講師に同朋大学教授の安藤弥氏をお招きした。全5回の講座には座談を取り入れていくほか、講座期間中に帰敬式の受式、5月には真宗本願寺にも予定されている。

安藤氏は「ご縁があったら、まずお寺に座っていると、

から始まっている。たぶん』私はお念仏に依って生きていく真宗門徒です』あるいは『本當に仏教に依って生きていきます』と言える。『自覚』が法名をいただいたというこのことと帰敬式を受けて法名をいただく、名づけていくことの意義を話された。

また「私が何を抱ける所にすまのか。その時に大事なもの道を進んでいく。聖人のご生涯、教えに出遇われた歩みに学んでいきたいと思います」と聖人の生涯に学ぶ意味を示された。



講座の様子

第14組

何を大切に生きるか

第14組(碧南市)では、推進員と住職・寺族が共に企画して、これからお寺に関わっていく世代の門徒と、一緒に教えを聞き、語り合いの場を大切にする「心の元氣塾」を毎年開催してきた。

今年は、心の元氣塾のパワーアップの期待をこめて、「本山指定帰敬式法座」が鋭意開催されている。この法座では、本山の教化施策のひとつで、推進員養成講座の内容であった帰敬式を受式して法名を名づける生活丁寧な学んでいくこととするものである。

昨年の準備段階から、これからお寺に関わっていただきたい門徒を各寺から選んでいただき、住職・寺族と共にスタートとして、「雑談から始める座談」で寺の仲間会を経験する中でテーマ決めを行ってきた。



共に語り聞き合う

法座は「今、あなたは何を大切に生きていますか?」や雑談から始める座談など新たな手法で気楽に話せる場作りを行い、鶴見晃氏(本山教育学研究所所員)による別院や本山奉仕団での帰敬式受式を含め全4回開催される。

スタッフ・参加者51名が、楽しくおしゃべりしながら「本當に大切なことは何なのか」を共に語り、聞き合う、今後が楽しみな法座となっている。

第12組12名が参加 門徒会本山研修

1月15日・16日、一泊二日の第12組門徒会上山研修会が行われ、組の住職と門徒会12名で京都の東本願寺に上山した。



座談会

本山教導(先生)から「法蔵菩薩の建てられた阿弥陀の本願をお迎えするが、その教えをインド中国日本の7人の高僧が伝えてくださった。1月15日・16日、一泊二日の第12組門徒会上山研修会が行われ、組の住職と門徒会12名で京都の東本願寺に上山した。

本山教導(先生)から「法蔵菩薩の建てられた阿弥陀の本願をお迎えするが、その教えをインド中国日本の7人の高僧が伝えてくださった。1月15日・16日、一泊二日の第12組門徒会上山研修会が行われ、組の住職と門徒会12名で京都の東本願寺に上山した。

第13組

女性間法会開催

教えに出遇う大切さ

女性門徒を対象に自らの生きざまを仏法に尋ね、問いを深めていくことを願いとする「女性間法会」が、赤羽別院において1月26日に開催された。

インフルエンザが猛威をふるう時期であったが、多くの参加者が参集し熱心に聴聞した。

この法座は、組防守会が企画・運営に携わり、5年目を迎える。本年は講師として、当組の明榮寺住職・小谷香示氏より「教えを聞くは幸せに生きられるでしょうか?」と題して、お話をいただいた。

まず、病氣療養中によく聴いたという落語の小話を紹介されたり、除夜の鐘にまつわる思いなどを披露された。

次に講題の問いに対し、教えに出遇うことの大切さをユーモアを交えた語り口



小谷香示氏

で笑いを誘った。人間は、今も昔も変わるし変わっていくことで対応し追われる社会生活について最も触れられた。

最後に、真の幸せとは何かという根本問題について「人が人として存在することである」と明言され、仏さまが説かれた「因縁果」の道理をわかり易くお話いただき、仏法を味わう貴重なひとときであった。

親子で大賑わい 子ども報恩講

第8組 安樂寺

本年1月19日、第8組安樂寺(小島町)において子ども報恩講が開かれ、親子連れの参加者らが賑わいをみせた。

当日は伊奈祐諦住職による講義のもと、全員で「正信偈」のお勤めをし、室内には子ども達の元気な声が響き渡った。続けて岡崎教区児童教化連盟より、スケッチブックを用いながら「シャタカ物語」のちのちの「評」がおはなしされ、親子が真剣な表情で聞き入る姿を見ることができた。

おはなしの後は、安樂寺役員による手作りのカレーライスとサラダをいただき、子ども達は大盛りのカレーライスに笑顔をみせた。更には、児童教化連盟による、ゲームと人形劇の時間もたれ、喜び子ども達の姿をと語られていた。



賑わう室内

放課後に集う 子ども寺小屋

第9組 寺正

西尾市では、生涯学習活動の取組みのひとつとして、放課後子ども教室「寺小屋」に「しお」を開設している。

この活動は、子ども達に安心できる居場所を提供するとともに、学習やふれあい活動を通して子ども達と地域の大人が交流を深めることを目的としている。

第9組・正覺寺(吉良町)においても7年前から、毎週火曜日と金曜日に、地元吉田小学校の生徒15名程が活動に参加している。

子ども達は、車裡の仏間で宿題を済ませた後、日暮れまで本堂や境内で指導員や若院と共に遊びを楽しんでいる。

若院は「寺子屋を卒業した高学年の子達も度々遊びに来てくれることに驚いています。地元の子も達にとって、より身近なお寺になれば嬉しいですね」と語られていた。



で、各校区の小学一年生から三年生が、放課後に市内の公民館や寺院に集まっています。

第9組・正覺寺(吉良町)においても7年前から、毎週火曜日と金曜日に、地元吉田小学校の生徒15名程が活動に参加している。

子ども達は、車裡の仏間で宿題を済ませた後、日暮れまで本堂や境内で指導員や若院と共に遊びを楽しんでいる。

若院は「寺子屋を卒業した高学年の子達も度々遊びに来てくれることに驚いています。地元の子も達にとって、より身近なお寺になれば嬉しいですね」と語られていた。

山本硝子株式会社
g+plus 一級建築士事務所
 〒445-0071 愛知県西尾市熊味町山畔16-5
 ☎ 0120-44-0089
 yg-plus.co.jp

住宅や店舗の新築・リフォーム
 窓まわり・水回りのリフォーム
 外構・エクステリア工事 など
 お気軽にご相談ください!

仏壇・仏具のことなら
 信用と技術を誇る製造直売の店

伝統的工芸
杉浦佛壇店
 ☎ (0563)57-4743
 西尾市熊味町(パチンコNEW SUN前)

集いの場

其の四



赤羽別院崇敬区内で開かれている、各寺院の聞法会や同朋の会の様子をお伝えしていくシリーズ「集いの場」第四回は、第8組・西尾市西浅井町の宿縁寺にて、毎月開かれている「学びの会」を取り上げました。

第8組宿縁寺の「学びの会」は、少しでも多くの方が教えに触れて頂ければという思いから、40年程前にお勤めの練習会から始まった会と、今でも別名声明の会と呼ばれている。

講座の内容はその都度変えており今回は、6月に予定されている門徒旅行先の訪問予定寺院とそれぞれの由緒等を説明された。

歴史の次にはお寺の維持の大変さと大切さも語られた。話は多岐にわたり本堂内の荘厳において、桜が花に変わっていった経緯を単に時代の流れという事ではなく、そこには人の心の問題が大きくあると説かれた。お仏飯のお供えの心から始まり、頂き物などは先ず仏様にお供えをしてい

本尊を中心として 宗風に基づいた葬儀

第14組では、長年に亘って、真宗の葬儀がどうあるべきか、宗風に基づいた葬儀とはどのようなものかを考えてきた。その流れの中で、お荘厳(おかざり)のしかた、清めの塩を使わないこと、友引の日にも葬儀ができるよう等について学び、取り組んできている。

その一つとして、今、白木の位牌から、紙を貼るという形を経て、法名軸への移行を目指している。

そのために、葬儀・法事等で用いるための法名軸を、作成した。この法名軸は、法名を書き紙を厚めにし、差し替えて繰り返し使うことができるよ



法名軸

法話のあとに拍手をする？

「法話のあとに拍手はしないか?」という質問をいただきました。ご質問について、教化団団長の天野義敬氏よりお答えいただきました。

近年法話のあとに拍手が起ることがありますが、如何なるものでありましょうか。私たちが口頭で説法を極楽浄土に生まれることなど願ってはいません。自分の思いが満たされることを求め、願いがかなえられればよいので、より良い生活をするにはどうしたらよいかを聞くことにします。

法話を聞くことによって、自分の目指すところのより良い生活のために参考になったとか、役立つお話だったとか、良いお話だった、感動したと受け取るならば気分も良く自然に拍手になるでしょう。

お話を聞いて極楽浄土に生きたいというところが起



天野 義敬

た時代のお話をされた。私達が阿弥陀様と向き合う姿勢が、阿弥陀様や先祖様等、多くのお陰様を感じながら共に暮らすべきの生活から、頂きを忘れない人間の欲望を満たすための都合の道具に変わって来ている事を指摘された。

親鸞聖人のお言葉を用いて、人に備わって行く三毒(貪欲・瞋恚・愚痴)についてお話をされた際には、自分をおさよければという自己中心の貪りの心で物事を



考え、気に入らなければ直ぐに怒り、愚痴ばかりをこぼしている私の姿、自らの毒に気が付く事が出来ない限りどこまで生きても人は幸せになれないと、生活の中でのお話をされた。

また、昨年亡くなられた樹木希林さんと医者の方の近藤誠さんのお話もされた。お二人の共通点は、いかに死ぬかではなく、いかに生きて往くかが大切であり、生老病死という四苦に対して、いかに自分を引き受けて人生を味わい深い物にするかが大切であり、若いと死に縛られている現代人と今の社会に疑問を投げかける内容でもあった。

会の最後には恩徳讃を斉唱し散会となった。

境内に根を張る枝垂れ桜の花に会える日も直ぐ近くまで来ている事を感じさせられる穏やかな午後だった。

第21回御坊俳壇・川柳

俳句(順不同) 選者 三浦 貞葉氏他

楓やかな寒九の雨や地の呼吸
愛らしくこもを被りて冬牡丹
薄明かり弥陀を見上げて寒参り
九十を忘れて拾ふ年の豆
母逆さし冬晴れ今日も風が吹く
山寺に旧知と出逢う彼岸かな

川柳(順不同)

老いて知る祖母の苦言をなつかしむ
小さな手息をふきかけて弥陀拜む
啓蟄の法話ききたくなりにけり

お知らせ 定例の第22回御坊俳壇・川柳の締切は5月5日です。奮ってご応募下さい。

濱嶋 君江
明 道之
安藤 明女

声明研鑽会のお知らせ

赤羽地域教化センター儀式部では、声明作法、儀式執行の姿勢をあらためて確認し、学ぶための場を、親鸞聖人の御命日をご縁として毎月28日に左記のとおり開きます。

日時 3月28日(木) 4月28日(日)
5月28日(火) 6月28日(金)
各日共 午後7時~8時30分

講師 赤羽別院列座 織田 顕慶 氏

持ち物 大谷声明集上 昭和法律式 中陰勸行集

服装 間衣 袷袢 念珠

対象 住職 寺族 有僧籍者

対費 無料

是非ご参加ください。ご案内申し上げます。

ご逝去の報

信川 芳枝 氏

第8組・隨縁寺前坊守
平成31年1月22日御命終

生前のご功勞を偲び
謹んで哀悼の意を表します
合掌

お詫びして訂正

赤羽御坊第57号の1頁の講師プロフィール及び、3頁の広告「ミナト電気」様の住所に誤りがありました。謹んでお詫び申し上げます。

誤 「名古屋工業大学 工学研究科終了後」
正 「名古屋工業大学 工学研究科修了後」

誤 「西尾市ツツ面町新御堂53-1」
正 「西尾市八ツ面町新御堂53-1」

赤羽御坊新聞懇志

第10組 嚴西寺同朋の会 様
第17組 明法寺 様

物品寄贈

某氏 座敷机 一点

貴重な懇志をありがとうございます。

編集室

本号では帰敬式法座の記事を掲載しました。帰敬式法座は本山指定の取り組みで、赤羽崇敬区域からは第10組と第14組が取り組むことを決め、この度、開催に至りました。2ヶ組はそれぞれテーマ・内容に違いはあるものの、入門的な講義があり、真宗の教えやお寺に慣れ親しんでもらうため、さまざま工夫を凝らしています。

特に2ヶ組で共通するのは「座談」を取り入れている点です。これまでの座談とは少し異なるかたちで、ルールがありながらも、話の脱線も認められる自由な話し合いの時間があり、参加者は最初こそ戸惑いながらも、結果的に話し合いを楽しんでいる光景が見られました。

当初は「なぜ座談をする必要があるのか」という戸惑いや反対意見がありましたが、実際に体験してみても多くの方が話し合いの効果(発散・仲間意識・気付き)を実感し、有意義なこととして捉えています。

連如上人は「寄合ひ談合せよ」(蓮如上人御一代記聞書)と仰いました。五人いれば五人とも自分の都合のよいように聞いてしまつたら、話し合いの意味は薄らぐという事です。座談はその原点到ち返ることであるように思います。